

学長顕彰祝辞

2017年11月3日

おはようございます。今回、学長顕彰を受けられた皆様、おめでとうございます。あわせて、ご指導いただいた先生方にもお喜びを申し上げます。大学の名誉を高めて頂いたことに対して、大阪府立大学を代表してお祝いとともにお礼を申し上げます。ありがとうございます。学長顕彰は春と秋に行っていますが、秋の式は白鷺祭中に行っていますので、本日のように、賑やかにできることをとても嬉しく思います。

学長として、このような挨拶をする機会が多いのですが、果たして、どれだけ皆さんの記憶に残るような挨拶ができているのか、あるいは、そもそも型通りの挨拶がよくて記憶に残る話などする必要もないのか、迷っているところです。入学式や学位記授与式の挨拶では、特にこのことが気になっていて、できることなら将来、思い出してもらえようような話をしたいと考えています。

私には、十八番の話があります。「天橋立」、「カーナビ」、「流れ星」、「利晶の杜の地図」の話をつくつかの場で話してきましたし、あいさつ文でも書いてきました。この中にはこれらの話を聞いたり読んだりしてくださった方もおられるのではないのでしょうか。「また同じ話だ」と言われたくないので、今回は、新たに「風」の話をしたいと思います。この話をするのは、本日がはじめてですので、うまく話せるかどうか、少し不安に思っています。

先日、函館に行きました。北海道のあの函館です。江戸時代末期に下田とあわせて開国した地で、洋風の建物やイギリスなどの駐在員がいたことを、街のあちらこちらで感じられる素敵な街です。日本三大夜景のひとつを見るために、大型の台風21号が近づいていたのですが、函館山に登り、日没を待ちました。そのとき、そこに「風向計」があることに気づきました。風の方向とその速さを示す風向計です。

台風が近づいていたので、かなり強い風が吹いていたのですが、風の方向は一定ではなく頻繁に向きが変わり（いや、本当にすぐ向きが変わるのです）、その頻繁さに驚きました。風向だけでなく、風力も頻繁に変わっていました。激しく吹いたかと思うと急に緩やかに、緩やかかと思うと激しく……という具合です。（周りの人は風向計ばかり見ている私を見て「変な人だな」と思ったかもしれません）

函館山で景色よりも風向計に気を取られながらふと横を見ると、陸上競技の桐生選手に似た人がいました。皆さんも短距離走の桐生選手をご存知ですね。その人を見たとき、100メートル走では、風が大きな影響を与えるということを思い出しました。帰宅後調べてみると、彼は2015年に追い風3.3メートルで9秒87を出したのですが、風が強すぎて（日本記録にはならず）参考記録になっています。その後、今年9月に福井市で、彼は日本記録として9秒98を出しました。「風のリズムを読み切った審判員がいたことが大きかった」と当時報道されましたが、この「風を読む」という言葉、面白いと思いませんか。

ところで、先日、皆さんは選挙に行かれましたでしょうか。若い皆さんには棄権すること

なく選挙というイベントを通して、新たな学び、新たな気づきをしてほしいと思っていますが、今回の選挙でも「風」があつて、向きが数度にわたって（あちらへ、こちらへと）変わったり、その力が大きく変わったりしたことはご存知のとおりです。風を見るだけでなく、風を起こすことも我々にはできるということを示してくれたように思います。

他にも「風」については、いろいろな話があります。本学には、ご存知のように人工光型の大型植物工場がありますが、屋内で風がないとレタスは育たないので、風を起こして栽培しています。ご家庭の扇風機やエアコンは、方向や強さが変わるほうが、つまり、「揺らぎ」があるほうが、我々は涼しいと感じます。風をうまく使えば、節電ができるのです。

さて、今回、学長顕彰をうけた皆さんの業績と「風」について考えてみましょう。皆さんの業績は確かに素晴らしいのですが、多くの方の場合、うまく追い風にのってこの場におられるのではないのでしょうか？いや、先生や先輩のアドバイスを参考に自ら風を起こしたのかもしれない。

逆に、皆さんのまわりには、風を読み間違えたり、逆風を浴びたり、風が来るのが少し遅かったために、この場にはいないだけで、実は、素晴らしい活動をしている方が多くおられるのではないのでしょうか。風の向きや力（そして、そのタイミング）が少し違っていれば、皆さんとその方々とは立場が逆だったかもしれません。

私自身のこれまでのキャリアを振り返ってみると、学生の時も民間の会社員だった時も、大阪府立大学の教員になってからも、そして、今のように法人の役員になっても、いろいろな「風」を見てきたような気がします。きっと皆さんの人生においてもこれから追い風や向かい風など多くの風を見ることでしょう。風を起こそうとしても起きなかつたり、思った以上に起きてしまつたりすることもあるでしょう。

「自然の風」を感じた時、この私の話を、そして今回の顕彰のことを思い出すとともに、皆さんの「人生の風」にどう対応するかを考えていただけるなら、それは望外の幸せです。ご静聴ありがとうございました。

以上で学長顕彰の祝辞とします。

2017年11月3日 大阪府立大学 学長 辻 洋